

第3学年〇組 英語科学習指導案

指導者 ○○ ○○
ELT ○○ ○○

1 英語科研究主題 「英語によるコミュニケーション能力の育成」
ーコミュニケーション活動と発音指導による生徒の動機付けを目指してー

2 題材名 Program 8 「Clean Energy Sources」

3 題材について

(1) 題材観

①コミュニケーションの観点から

本題材は、学習指導要領の目標を踏まえ、「(1) 言語活動 イ 話すこと (イ) 与えられたテーマについて簡単なスピーチをすること。」をねらいとして設定した。

本題材の内容は、大介がパットと環境を汚さないクリーンエネルギーの大切さ、化石燃料が有限であること、風は再生可能なエネルギーであることについて話をしている場面である。世界中で原子力発電が話題になっている今、エネルギーの問題は生徒にとっても身近な話題となっている。生徒が住む地域、または日本に適した発電方法を調べ、発表をすることでコミュニケーション能力の基礎作りをしていきたい。

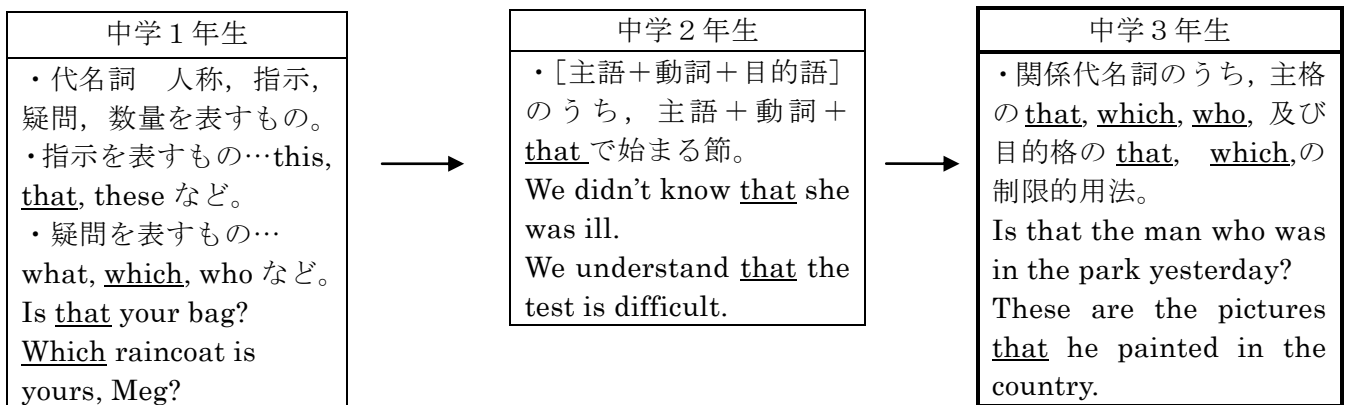
②言語教材の観点から

本題材で取り上げる言語材料は、関係代名詞のうち目的格の **which**, **that** そして、関係代名詞の目的格の省略である。既習の前置詞句、不定詞、現在分詞・過去分詞や関係代名詞の主格などを後置修飾というまとまりで整理し、それらの文の構造が理解できるように指導していく。また、関係代名詞が用いられた文について、日本語と英語における大きな違いである語順や修飾関係を生徒に意識させ、正しく意味を取ったり、正しい語順で書いたりできるように、指導をすすめる。そして、スピーチによる発表につなげられるよう定着を図りたい。

③国際理解の観点から

2011年3月11日に我が国を襲った東日本大震災は、原子力発電の安全性を根本から揺るがした。それによって、世界中で再生可能エネルギーが注目を浴びるようになった。本題材では、各セクションで風力発電、太陽光発電、波力発電などの具体的な発電方法を扱う。他国の発電方法と自らの地域や日本の発電方法を比較し、それぞれに適した方法を調べ、発表することで他国の文化に対する興味・関心を高めさせたい。

(2) 指導内容の系統



4 生徒の実態（29名）

（1）学級集団の実態

本学級は明るい雰囲気であり、英語学習に対する意欲が高い生徒が多い。また、コミュニケーション活動や音読等の活動にも大きな声を出して取り組み、生徒の多くが英語の授業に対して積極的に取り組んでいる。一方で、コミュニケーション活動や自己表現を苦手とする生徒や、英語で話すことに対して恥ずかしさを感じている生徒、また、発表をすることに対して苦手意識を持つ生徒も数名見られる。そこで、授業ではペアでの活動を毎回実施し、すべての生徒がコミュニケーションを図るきっかけを持てるような工夫をしている。

（2）題材に関わる実態について

・調査結果

調査人数；29名 調査実施日；平成24年11月20日（火）

◎：よくできる ○：ほぼできる △：不十分

- ①英語を使って ELT や外国の人と自由に話せるようになりたい。
- ②英語の授業に積極的に参加することができる。
- ③「佐藤先生は英語を教えるのが上手な先生です。」という日本語を正しい英文にできる。
- ④英語で日本の伝統文化を表現できる。
- ⑤まとまりのある英文を聞いて、必要な情報を聞き取ることができる。
- ⑥まとまりのある英文を読んで、その要点を理解することができる。
- ⑦基本的な英単語（difficult / hard / easy / understand）の知識が身についている。
- ⑧日本語と英語の違いを具体的な知識として理解している。

・考察

実態調査の結果から、ほとんどの生徒が英語の授業に積極的に取り組んでおり、「英語を使って ELT や外国の人と自由に話せるようになりたい。」と考えていることが分かる。しかし、オ・ク・サ・ヒの生徒はコミュニケーションへの関心がやや低く、ペアやグループでの活動に対しても消極的な場面が見られる。したがって、指導者による励まし・声かけ等の支援を通して、また、意欲的な生徒と活動させることで前向きに取り組ませていきたい。また、◎の割合が多い生徒と、△の割合が多い生徒との二極化の傾向がある。授業後には、英語を得意とする生徒に満足感を与え、かつ英語を苦手とする生徒にも達成感を与えられるように学力に応じた課題を与える等の工夫していく必要がある。

英語の授業中に行う指示出しや、活動方法の説明のほとんどを英語で行なっていることもあり、数名の生徒が授業外でも指導者に英語で話しかけるなど、英語に対して関心の高い生徒が多い。一方で、英語による指示・発問を理解しきれない生徒もいるので、生徒一人一人の反応・表情をよく見ながら、日本語で補足をする・生徒同士に説明をさせるなどの工夫をしながら授業をすすめていきたい。

5 題材の目標

- （1）自分たちの住む地域に適する発電方法について積極的にスピーチをしようとする。

＜コミュニケーションへの関心・意欲・態度＞

- （2）関係代名詞の目的格を使って、自分たちの住む地域に適する発電方法を紹介することができる。

＜外国語表現の能力＞

- （3）関係代名詞の目的格を使って説明された英文を聞くこと、読むことを通して内容を理解することができる。

＜外国語理解の能力＞

- （4）本題材や自ら調べることを通して、世界で使われているエネルギーについて理解することができる。

＜言語や文化についての知識・理解＞

6 指導計画 (8時間扱い)

- (1) 関係代名詞 **which** の目的格の導入と理解 1時間
- (2) セクション1の内容理解と音読 1時間
- (3) 関係代名詞 **that** の目的格の導入 1時間 (本時)
- (4) セクション2の内容理解と音読 1時間
- (5) 関係代名詞の目的格の省略の導入と理解 1時間
- (6) プログラムのまとめと地域に適した発電方法についての英文作成 1時間
- (7) 「地域に適する発電方法」についてのスピーチ準備 1時間
- (8) 「地域に適する発電方法」についてのスピーチ 1時間

7 本時の指導

(1) 目標

- ①ペアやグループでの活動に積極的に参加しようとする。
<コミュニケーションへの関心・意欲・態度>
- ②関係代名詞 **that** の目的格を使用した英文の意味とその用法について理解できる。
<外国語理解の能力>

(2) 展開

学 習 活 動 と 内 容	時配 形態	指 導 上 の 留 意 点 ●学び合える場の設定の工夫	評 価 (方 法)
1 Greeting (あいさつ) ・ Good morning, class. (あいさつをかわす。) ・ How are you? ・ What did you do yesterday?の質問に関する会話をペアで行い、相手の話した内容をクラスに英語で紹介する。	7分 一斉 ↓ ペア	○ ペアで簡単な挨拶や英会話をし、英語を学習する雰囲気を作る。 ○ ELT とともに英語での表現が苦手な生徒に対し、語彙や表現に関する助言を行う。	
2 90seconds quiz (warm-up) ・ ELT が読みあげる英語を繰り返し、発音を確認する。 ・ ペアで片方が日本語を読み、もう片方が英語に変換する。	8分 ペア	○ ペアになり対戦形式で行い、90秒で何問答えることができたかを生徒に確認し、勝者を賞賛する。また、敗者は勝者を英語で賞賛する。	○ ペアでの活動に積極的に参加しようとする。 (観察)
3 New Words (新出単語) ・ フラッシュカードを使って、ELT と共に New Words の発音と意味を確認する。適宜個別に発音させ、間違いがあれば指摘する。 ・ ペアで単語練習をする。	10分 一斉 ↓ ペア	○ ペアになり対戦形式で行い、制限時間内で何問正解を得ることができたかを生徒に確認し、勝者を賞賛する。また、敗者は勝者の指定した英単語を3回書き取り、勝者に見せる。	
関係代名詞の目的格 that を用いた英文を理解しよう。			
4 Grammar Introduction (導入) ・ カルタを使って新出文法事項を導入する。 ①ELT が読み上げる英語に、合致	15分 グループ	● 自らの学力に応じた英語で説明し、生徒同士の作った英語を聞き合うことで自分でも使用できる表現を学び合える場となる	○ 関係代名詞の目的格 that を用いた英文の意味を理解

<p>する絵札を取っていく。 ②生徒が順番に英文を作り、その英文に合致する絵札を取っていく。</p>		<p>ようにする。 ○ ELT とともに英語での表現が苦手な生徒に対し、語彙や表現に関する助言を行う。</p>	<p>できる。 (観察)</p>
<p>5 Conclusion (まとめ) ・導入で出てきた英文について何度か発音練習をする。 ・板書・発問をしながら、ポイントを確認し、ノートにまとめる。 ・ワークで本時の内容を確認する。</p>	<p>9分 一斉</p>	<p>○ 本時の授業を振り返らせることにより、今日何を学習したのかを再確認させる。</p>	
<p>6 Greeting (あいさつ)</p>	<p>1分 一斉</p>	<p>○ 声をそろえて、クラス全体が一体となるように明るくあいさつができるようにする。</p>	

(3) 教科研究主題に関する考察

本校の英語科では、「コミュニケーション能力」を「英語を使って相手の意向や自分の考え、またはお互いの情報を伝え合う能力」ととらえている。しかし、日常生活を考えてみると、英語を話さなければならない場面や状況はほとんどないというのが実情である。それらのことを踏まえ、英語科の授業では、身近な「言語の使用場面」や「言語の働き」を重視したコミュニケーション活動を工夫することにより、生徒の「自ら英語を話したい」という意欲を高めたいと考えている。特に、50分の授業の中で、一語でも多く生徒に英語でコミュニケーションをとらせる時間を確保し、ペアやグループで活動する場面を多く取り入れることに重点を置き、学び合える場を工夫することで、生徒が互いに助け合いながら英語を学習し、英語を使用することに対しての抵抗を少なくしていけるように指導したい。また、生徒の英語の発音上のミス等についても細かく指導し、相手に伝わる英語を生徒に身につけさせることで、生徒に自信をつけさせたいと考えている。